

特産品で受験突破！**稲庭うどん、駒形リンゴ、川連塗の箸 地元業者、稲川中生に贈る**

佐藤理事長（左）から「するする入る合格うどん」を受け取る生徒

稲川地域の事業者が27日、入学試験合市格を後押ししようと、湯沢市の稲川中学校(富谷祥彦校長、137人)で縁起を担いだ特産品を3年生47人に贈った。

贈呈されたのは「するする入る合格うどん」と名付けられた稲庭うどんのほか、台風でも被害が最小限にとどまったことにちなむ駒形地区の

「落ちないリンゴ」、合格にかけて五角形にし、先端を滑りにくく加工した川連塗の箸など。受験勉強の励みにしてもらおうと毎年実施している。

事業者を代表し、県稲庭うどん協同組合の佐藤正明理事長が「受験がスムーズに進むことを願って準備した。生まれ育った稲川地域を支えようとする人になってほしい」とあいさつ。JAこまち果樹部会の遠藤幸作部会長は「台風にも耐えたリンゴのように難関を乗り越え、一步一步成長していきましょう」とエールを送った。

各事業者はそれぞれの贈呈品を生徒代表に手渡しし、本番に向けて激励。3年生を代表して阿部爽冬さんが「たくさんの品をいただき、応援してもらっていることを実感した。これを支えに、しっかり勉強したい」と感謝を伝えた。(小林智彦)

(令和5年1月28日(土)秋田魁新聞より一部抜粋)